



## 水の事故に備えて

もしも  
池や海に落ちてしまったら

夏は、海水浴や釣り、川遊びなど、水遊びが大変気持ちの良い季節ですが、残念ながら、全国各地で多くの水の事故が発生しています。



今回は、万が一、着衣のまま池や海に落水してしまったときの対処方を、落ちた人と発見した人の両方の立場から紹介します。

水の事故の現場では、溺れた人を発見した人が慌てて助けに行き、一緒に溺れてしまうことも少なくありません。二次被害に気をつけて落ちていて行動することが大切です。

### 水に落ちた人

- ① つま先を水面に出し、両手を広げ背浮きします。体の力を抜き、呼吸は素早く吐いて、素早く吸います。
- ② 浮き具をつかまえたなら胸や腹の上で確保します。無理に泳がず、まず浮くことを考えることが大切です。

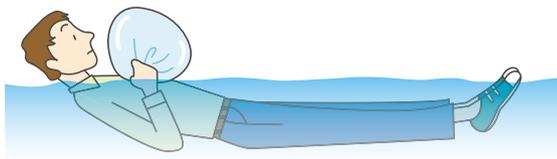
### 着衣のみの浮き身

浮き具を受け取る

### 浮き具ありの浮き身

救助を待つ

### 救助



▲買い物ポリ袋を使った浮き身の例

### 発見した人①

自分の携帯電話で119番通報します。もしなければ、近くの民家や施設、携帯電話を持っている人などに電話を借ります。

### 119番通報

### 電話を確保する



▲水辺では救命胴衣の着用を



▲乗船時には救命浮き輪の確認を

### 発見した人②

浮き具を探します。救命用の浮き具が近くになくても、買い物ポリ袋、1.5リットル程度のペットボトル、ランドセルなど1リットル程度の空気が詰まったものであれば、浮き具として使えます。

### 浮き具を探す

### 浮き具を渡す・励ます

## 緊急消防援助隊の活動

東日本大震災被災地の支援を行いました

緊急消防援助隊とは、全国的な消防応援の制度に基づく消防部隊です。阪神・淡路大震災での教訓を踏まえ、平成7年度に創設されました。被災地の消防力のみでは対応困難な、大規模・特殊な災害が発生したときに出动します。

今回の東日本大震災では、田原市消防本部も緊急消防援助隊愛知県隊の一員として、3月12日から4月12までの一か月間で、延べ41名が宮城県亘理郡において、行方不明者の捜索など災害援助活動を行いました。



▲援助活動の拠点となった亘理消防署